

2019年11月30日(土)

老球の細道513号

11月の言葉

バスケットボールコーチ 室井 富 仁

孫娘が母親とオーストラリア旅行に出かけた。まだ幼稚園年中さんなのに海外旅行に対する不安は皆無で、出かける前から行く気満々であった。現地に行っても人見知りせず平気で挨拶を交わし、先住民アボリジニのショーでもステージに平気で上がり、一緒に踊りを踊ったという。「かわいい孫には旅とタブーをさせよ」。今月は亡き父母の命日。改めて「死を想え」そして「而今」。今年もあとひと月。終わりよければすべてよし。

1・テレビから

◆「答えを教えるのではなく、何が問題かを考えさせるのが教育だ」〈NHK・知恵泉・日本薬学の父・長井長義の言葉〉：バスケットボールクリニックで子供たちに「何か質問ないですか？」と問うと返答なしがほとんど。何がわからないか、それがわからない。

◆「ふだんやっている練習を試合で出せば怖いものはないと思っている。それが出せる時ってというのは本当に自分が楽しんでやっている時だと思う」〈NHK スペシャル：ボクシング世界チャンピオン・井上尚弥〉：スポーツは楽しいから長続きし、楽しんでやるから思い切り伸び伸びできる。何の世界も楽しんでやる者には絶対かなわない。

◆「心のリミッターを外そう。自分の可能性が広がる。心の中のモンスターを呼び起こせ」〈NHK 奇跡のレッスン：バレーボール日本女子代表コーチ・フェルハト・アクバシュ〉

力出し惜しみをして大きな声の出ない選手たちに語りかける。強烈なスパイクを打つときは自然に出る。誰の心にもモンスターはいる。それが火事場の馬鹿力の正体だ。

2・読書から

◆「優秀な選手は自分自身を良くするようがんばる。偉大な選手は皆を良くするようがんばる。」〈STEVE ALFORD 著『PLAYING FOR KNIGHT』〉：天才コーチ、ボビー・ナイトが教え子のステイブ・アルフォードに教え諭す。アルフォードは自分で得点することばかり意識しているが、周りの選手にも良いシュートチャンスを作れと。「優秀な選手」は誰でもなれるが、「偉大な選手」は希少で歴史に残る。

3・新聞から

◆「終に無能無才にしてこの一筋につながる」〈朝日・折々の言葉：松尾芭蕉〉：若い頃から俳諧をむやみに好み、それで生きて来たので他のことが何もできなかったと。器用に生きられなかったのがバスケに集中できた。バスケで色々学べたが、まだまだ納得できない。

◆「軍備拡張競争は貴重な資源の無駄使いです。資源は人類全体の発展と自然環境の保全に使われるべきものです」〈朝日：ローマ法王の日本での演説〉：よくぞ正論を言ってくれた。

国民の税金が無駄に使われているニュースが後を絶たない。1発のミサイル発射にどれだけの無駄なお金が使われているのか。誰のための戦争か？誰のために死に、殺すのか？